

2024 年度 事業報告

2024(令和 6)年 4 月 1 日～2025(令和 7)年 3 月 31 日

2024(令和 6)年度は、昨年度に引き続き事業の大部分を対面とオンラインを併用し実施した。

基本方針として、定款にうたわれる 3 つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等

その基盤支援事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を図る努力をした。以下、2024 年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

1. 青少年留学支援事業

(1) 高校生交換留学支援

同窓会・ネットワークの準備に向けて過去の事業参加者の情報整理をおこなった。

(2) 大学院留学生支援

奨学生 9 名に月額 20 万円を支給した。

2024 年 4 月 6 日に証書授与式を行い、新奨学生 3 名、現役生 6 名と修了生 1 名、奨学生選考委員および OB/OG 9 名が出席した。

大学院生へのサポートの一環として、2024 年 9 月 3 日～5 日の 3 日間、夏の研修交流会を富山にて実施し、奨学生 9 名が参加した。各自の研究テーマの発表と意見交換、OBOG によるオンライン講義の他、富山にて地方都市体験プログラムを実施した。

加えて、2025(令和 7)年度採用の「大学院留学アジア奨学生」の募集を行ったが、指定校からの推薦がなかったため、募集期間を 2025 年 5 月まで延長し、追加募集を実施した。

2. 青少年交流および言語教育支援事業

(1) 青少年国際交流

コロナ禍以降、最初の海外派遣事業として、カンボジアへの高校生派遣事業を再開した。2024 年度は次の 3 つの事業を実施した。

① かめのりカレッジ 2024

今後グローバルでの活躍を目指す国内在住の大学生を対象に、2024 年 7 月 21 日にオリエンテーション、英語レッスン、チームディスカッションの事前プログラムをオンラインにて実施後、8 月 25 日～8 月 28 日の 3 泊 4 日で、L stay & grow 晴海にてメインプログラムを実施した。日本の大学生 15 名に加え、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアの大学生 4 名を招へいした。メインプログラムでは講師陣の講義を受け、プレゼンテーションスキルを学び、チームディスカッションを重ねた学生たちが最終プレゼンテーションを行った。参加者からは「世界を視野にいたれた考え方や姿勢を、様々な観点から学ぶことができた。大学生には中々このようなチャン

スがないためとても有益だった」「残りの大学生活で自分を変えるための準備が整ったように感じた」などの感想があった。（日本人応募は 83 名、2019 年度より開始）

② かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト

ライフスキル教育で実績のある（特）青少年育成支援フォーラムへの委託事業として、国内在住の高校生・大学生を対象に、リーダーシッププログラムを実施した。2024 年 11 月 13 日～27 日の期間にオンライン研修及びオンデマンド研修を、12 月 7 日・8 日に 1 泊 2 日の合宿研修をアルカディア市ヶ谷で実施し、全員発揮型リーダーシップについて高校生 6 名、大学生 15 名の計 21 名がグループ活動をととして実践的に学びを深めた。（応募は 51 名、2022 年度から開始、本年度は 3 回目）

③ 高校生カンボジアスタディツアー

（公社）日本ユネスコ協会連盟と共催で、2024 年 7 月 30 日（火）～8 月 5 日（月）に、2019 年度以来 5 年ぶりとなるカンボジアスタディツアーを実施した。全国から選抜された 10 名の高校生が、プノンペンの日本国大使館、UNESCO プノンペン事務所への表敬訪問、ツールスレン虐殺博物館やキリングフィールド、および国立博物館の見学を行い、また、シェムリアップでは、寺子屋や寺子屋学習者の自宅訪問、アンコール遺跡群の見学など、国際協力の現場を視察した。訪問先ではカンボジアの歴史を知り、現地の人々の日常生活を垣間見、またクメール文化に触れることができた。日本の学校生活とは異なる環境の中で、生徒が自分自身や日本社会について改めて考える機会となった。（応募者 84 名、今回は 8 回目）

(2) 国際交流事業助成

① 多文化共生地域ネットワーク支援事業

日本国内での多文化共生に向けた担い手育成とネットワーク形成のための研修会、ネットワーク会議および事業助成を実施した。

（一財）ダイバーシティ研究所への委託事業として、「かめのり多文化共生塾 2024」を 2024 年 9 月 14 日（土）～9 月 16 日（月祝）に神戸、2024 年 10 月 12 日（土）～14 日（月祝）東京で実施した。

統計データや先駆的に活動している団体からの事例紹介を講義形式で学んだ後、実践に活かすためにグループで課題設定と課題解決のための計画・予算等をまとめ発表した。

開催地（時期順） 協力団体（敬称略）	神戸 こうべまちづくり会館	東京 アルカディア市ヶ谷
第 1 日 基本解説、事例紹介	2024 年 9 月 14 日（土）	2024 年 10 月 12 日（土）
第 2 日 分野別解説：日本語、生活 支援、地域づくり 演習解説とふりかえり	2024 年 9 月 15 日（日）	2024 年 10 月 13 日（日）
第 3 日 グループ発表と相互評価 ふりかえり	2024 年 9 月 16 日（月祝）	2024 年 10 月 14 日（月祝）

参加者数	27 人（修了者 26 名）	21 人（修了者 20 名）
------	----------------	----------------

2025 年 1 月 25 日（土）および 26 日（日）には、「持続可能な地域づくりをめざす担い手育成のための多文化共生ネットワーク会議 in 富山」および「多文化共生地域ネットワーク支援事業 2025 年度事業助成 オンライン説明会」を開催し、現地では 19 名が、オンラインでは延べ 80 名が参加した。ネットワーク会議では現地参加を対象に、フィールドワークとして多文化共生分野で活動する団体訪問を行い活発な意見交換がされた。さらに能登半島地震で被災した外国ルーツの在住者や被災地支援に携わった方々の話から、災害時や緊急時の対応についての知識を深めることができた。

「多文化共生地域ネットワーク支援事業助成」では、助成審査選考委員会で採択された 11 団体・個人の 2024 年度の活動に対し、助成金 5500 千円を支給した。採択団体、事業、助成額は以下のとおりである。また、次年度の活動に対する同助成の募集と審査が行われ、7 団体の採択が決定した。

2024 年度の採択団体、事業、助成額は以下のとおりである。

団体・個人名	事業名	助成金額
特定非営利活動法人あいちかすがいっこ	Enjoy parenting in KASUGAI	500,000
特定非営利活動法人可児市国際交流協会	多文化と福祉の視点をもった教室運営の基盤づくり	500,000
長久手市国際交流協会	日本語ゼロレベルの子どもたちが学校生活を楽しく始められるように～プレクラスの実施～	500,000
ニエケ ひとみ	スリランカ人補習教室	500,000
特定非営利活動法人トルシーダ	ブラジルルーツの若者と共に考える未来	500,000
鹿沼市国際交流協会	外国人児童生徒受入体制の整備	500,000
Lin Com	民間・移動型「プレクラス」創設事業	500,000
一般社団法人北上市国際交流協会	多文化共生のための「きっかけ」づくりプロジェクト Shared future!	500,000
特定非営利活動法人つどう場こうべ	いつも子どもと一緒にいるママ＆パパのための生涯学習としての日本語教室	500,000

特定非営利活動法人にほんご豊岡 あいうえお	外国にルーツを持つ子どもと保護者の笑顔づくり事業～外国にルーツを持つ子どもの初期適応支援体制の構築に向けて～	500,000
一般社団法人甲賀市国際交流協会	忍者のまち甲賀市の多文化共生の地域づくり 多文化市民図鑑～登場人物とつくる多文化カフェ＆ラジオ～	500,000
	合計	5,500,000

また、(一社)日本庭園協会が日本の若手庭師をオーストラリアに派遣する文化交流事業へ501,808円の助成を行った。

② 連続セミナー

2024年6月から7月にかけて「高齢化・人口減少の加速化に備える持続可能な地域づくりと、国際交流・多文化共生のこれから」と題したオンライン連続セミナーを全4回、計6名のゲストスピーカーを迎え実施した。アンケートでは「様々な事例紹介に影響を受けた」「非常に参考になった」というコメントが寄せられた。(参加者数は、第1回89名、第2回92名、第3回95名、第4回91名)

(3) 海外日本語教育サポート事業

① にほんご人フォーラム事業

(独)国際交流基金との共催事業の「にほんご人フォーラム」事業は、2019年以来の集合フォーラム「にほんご人フォーラム2024」を、2024年8月18日(日)～25日(日)に国際交流基金日本語国際センター(さいたま市)で開催した。東南アジア5カ国(インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア)から生徒各4名、中等教育日本語教師各2名、引率者各1名、日本の高校生4名の合計39名が参加した。教師プログラムでは、国ごとに考えた授業計画や工夫を発表し、多角的な視点を持つことを学んだ。生徒プログラムでは、「わたしのまちはサステイナブル?」というテーマで学び、メインプログラム最終日にはグループで完成させたサステイナブルについての3分動画(日本語)を発表した。また海外からの参加生徒は、8月24日～25日に埼玉県内でホームステイを行い、日本の家庭生活も体験した。

また、東南アジア5カ国(インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア)が国内で行う「にほんご人フォーラム」関連事業を支援した。

(独)国際交流基金の海外拠点と共催で、以下の事業を実施した。

事業名	共催拠点	実施期間	参加者
中等教育日本語教師全国研修	ベトナム日本文化交流センター	2024年8月6日～7日	教師22名
JSフォーラム体験&シェアワークショップ	ジャカルタ日本文化センター	2024年11月、2025年1月	教師52名
タイにほんご人フォーラム関連事業 (JSF2024参加者事前事後支援、タイ教育省)	バンコク日本文化センター	2024年8月～2025年3月	教師43名、生徒4名、教育省4名

職員の招へい、タイ日本語教師キャンプ)			
にほんご人フォーラム（マレーシア）～中等教育日本語教師キャンプ～	クアラルンプール日本文化センター	2024 年 10 月 9 日～11 日	教師 54 名
にほんご人フォーラム 2024 2.0（フィリピン）	マニラ日本文化センター	2024 年 11 月 27 日～29 日	生徒 12 名、教師 6 名

③ ベトナム日本語教育への支援

2021(令和3)年度から当初3カ年事業として支援してきた「ベトナム初中等日本語教育教科書等作成・整備事業」は、最終年として、ベトナムの初中等教育において日本語教育の新カリキュラムに沿った教科書等の作成事業を、(独)国際交流基金ベトナム日本文化交流センターとともに支援した。2024 年度は 7,674,352 円を助成した。

3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

① 異文化理解講演会

かめのり財団が助成を行った「にほんご人フォーラム関連事業」として、JFKL では「中等教育日本語教師キャンプ」を 10 月にクアラルンプール市内で実施し、マレーシアの中等教育機関の日本語教師 54 名が参加した。その最終日のプログラムとして、2024 年 10 月 11 日に當作靖彦先生によるワークショップ「未来志向の日本語教育：なぜ・何・どう」が行われた。マレーシアの中等教育機関の日本語教師 54 名だった。

2024 年 10 月 12 日には、第 21 回マレーシア日本語教育国際研究発表会にて、當作靖彦先生が基調講演「未来志向の日本語教育：人間性・人間力と AI」を行った。参加者はマレーシア、日本および国外からの日本語教師や研究者 74 名だった。

また、2025 年 2 月 10 日午前に名古屋大学教育学部附属高等学校にて、當作靖彦先生の講演会「21 世紀を生きる地球市民になるために」、午後には名古屋大学言語教育センターキックオフシンポジウム「未来にはばたけ！ことばの教育」において講演「未来戦略としての外国語教育」を行った。高校での講演会の参加者は高校 1 年生の生徒 120 名だった。

② かめのりフォーラム 2025

「かめのりフォーラム 2025」を 2025 年 1 月 10 日にアルカディア市ヶ谷で開催し、第 18 回かめのり賞の表彰セレモニーおよび受賞団体の活動紹介、2024 年度のプログラム参加者による体験発表、そして(一財)ダイバーシティ研究所の田村太郎氏による特別講演を行った。

4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

第 18 回かめのり賞は、かめのり大賞 2 部門（草の根部門、人材育成部門）、かめのり特別賞の計 3 団体を顕彰した。将来を見据えた、地道な努力で心の絆を深め、相互理解に貢献している団体・個人の活動を評価した。正賞のトロフィーと、副賞として 100 万円の活動奨励金を贈呈した。25 件の団体からの応募があった。

【かめのり大賞 人材育成部門】 特定非営利活動法人アレッセ高岡

【かめのり大賞 草の根部門】 特定非営利活動法人国際活動市民中心 CINGA

【かめのり特別賞】

特定非営利活動法人あおぞら

(応募数 25 件)

5. その他

(1) 広報活動の強化

2023 年にリニューアルしたウェブサイトでの情報発信を SNS と連携して行った他、2023 年度の年次報告書を 2024 年 8 月に発行した。

また、引き続きデータベースの整備や、かめのり財団の奨学生および財団事業に参加した OBOG が主導しての同窓会・ネットワーク構築のためのコミュニティサイトを準備中である。

(2) IT の整備

オンライン・プログラム等に対応できるインターネット環境の保守・維持を行い、サーバー、専用回線等 IT 環境の整備・充実をはかった。

以上